

科目名	人間発達学						
科目名(英)	Human Development						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤川 貴子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	重症心身障害児施設において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	①人間の発達過程全般の流れを学ぶ。②系統別での発達過程を学ぶ。③種々の発達理論を学ぶ。④人間発達学と作業療法の関係を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を理解する。	
	○	○				発達理論の歴史とその変遷を知り、各領域の代表的な発達理論を理解する。	
	○	○				乳児期、幼児期、学童期における発達の特徴を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 編 シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 南江堂 参考文献: 社団法人日本作業療法士協会監修: 作業治療学3 発達障害、協同医書、2010 上田礼子: 生涯人間発達、改訂第2版 三輪書店、2012 J.H.de Hass: 乳児の発達一写真で見る0歳児一、医歯薬出版、1977						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人間発達とは(発達・成熟・老化について、発達の特性・規則、発達課題)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	人間発達学(発達科学)の理論と研究法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	自然科学から見た人間(体育学・行動科学・自然科学のリハへの応用)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	社会科学から見た人間(社会とは・社会科学とは・社会科学のリハへの応用)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	身体運動器機能一身体運動の発達とは				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	身体運動器機能一背臥位・腹臥位・座位・歩行の発達(実技含む)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	身体運動器機能一背臥位・腹臥位・座位・歩行の発達(実技含む)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	身体運動器機能一背臥位・腹臥位・座位・歩行の発達(実技含む)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	身体運動器機能一巧緻動作の発達(実技含む)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	身体運動器機能一反射・反応(実技含む)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	身体運動器機能一感覚・認知機能の発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	言語機能の発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	心理・社会性の発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	※その他、必要なものについては授業の中で提示します。						

科目名	整形外科学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。 各身体部位の基本構造を知り、外傷を理解する。 各整形外科領域疾患の特徴的な症状・病態を把握し、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。 作業療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					整形外科領域疾患の特徴的な症状、病態を説明できる。	
	○					身体各部の基本構造を知り、外傷について説明できる。	
	○					整形外科領域疾患の治療法を説明することができる。	
	○					作業療法の治療上での各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。	
○					整形外科疾患から起因する、作業療法が関わる障害について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	標準整形外科学(Standard Textbook) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	11章-1	骨折1		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	11章-2	骨折2		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	3	11章-3	骨折3		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	4	11章-4	骨折4		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	5	12章	脊髄損傷		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	6	13章	関節における外傷性疾患		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	7	13章	関節における外傷性疾患		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	8	15章	腱・靭帯における外傷性疾患		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	9	16章-1	スポーツ外傷		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	10	16章-2	スポーツ障害		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	11	17章	熱傷		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	12	18章	切断および離断		教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	13	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
	14	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
15	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	内科学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	眞崎 義憲		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	内科学概説			教科書で予習しておく。 生理学教科書も併せて予習しておく。		
	2	腎・泌尿器解剖生理			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	腎・泌尿器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	内分泌系解剖生理			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	内分泌疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	7	循環器疾患(生活習慣病)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	8	血液・免疫系			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	自己免疫疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	ウイルス性肝炎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	中毒・環境要因による疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	復習			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	まとめ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ			教科書で予習しておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	小テスト	◎	◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurological Medicine Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法が関わる障がいがあるが、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症			教科書で予習しておく。		
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	認知症、記憶障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	神経内科における感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	Pediatrics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学小児科		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	小児科学の基礎知識の習得						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				新生児・未熟児の疾患について説明できる	
	○	○				先天異常と遺伝病について説明できる	
	○	○				小児期の神経系疾患、筋・骨格系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の循環器・呼吸器・消化器疾患について説明できる	
○	○				小児期の消化器・内分泌・代謝疾患について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1章:小児の発達			教科書で範囲の予習しておく。		
	2	1章 2章:小児科概論・治療			教科書で範囲の予習しておく。		
	3	3章:新生児・未熟児疾患			教科書で範囲の予習しておく。		
	4	4章:先天異常と遺伝病			教科書で範囲の予習しておく。		
	5	5章:神経・筋・骨系疾患 その1			教科書で範囲の予習しておく。		
	6	5章:神経・筋・骨系疾患 その2			教科書で範囲の予習しておく。		
	7	6章 7章:循環器・呼吸器疾患			教科書で範囲の予習しておく。		
	8	8章:感染症			教科書で範囲の予習しておく。		
	9	9章:消化器疾患			教科書で範囲の予習しておく。		
	10	10章:内分泌・代謝疾患			教科書で範囲の予習しておく。		
	11	11章 12章 14章:血液疾患 免疫・アレルギー疾患・膠原病 腫瘍性疾患			教科書で範囲の予習しておく。		
	12	13章 17章:腎・泌尿器・生殖器疾患、眼科・耳鼻科的疾患			教科書で範囲の予習しておく。		
	13	15章 16章:心身症・神経症など 重症心身障害児			教科書で範囲の予習しておく。		
	14	まとめ			教科書で範囲の予習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					100%
履修上の注意							

科目名	精神医学Ⅱ						
科目名(英)	PsychiatryⅡ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	石井 洋平		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	精神医学領域の疾患および治療法を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学領域の疾患について説明できる。	
	○	○				精神医学領域の治療法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理療学 作業療法学 専門基礎分野 精神医学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	脳気質性精神障害①			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	脳気質性精神障害②			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	脳気質性精神障害③			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	精神作用物質による障害①			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	精神作用物質による障害②			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	心因性精神疾患①			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	心因性精神疾患②			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	心因性精神疾患③			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	心因性精神疾患④			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	人格・行動の障害①			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	人格・行動の障害②			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	まとめ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	まとめ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	まとめ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	老年医学										
科目名(英)	Geriatrics										
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美						
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○						
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年										
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。リハビリテーションの場においても高齢者に関する知識がさらに重要となるであろう。この授業では老年医学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指し、臨床実習で応用できる力を身につけることを目的とする。										
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				老年医学一般の知識について説明できる。					
	○	○				老年期疾患の病理、臨床像について説明できる。					
	○	○				老年期疾患に対するリハビリテーションについて説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	第1・2章 老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)					配布資料の復習				
	2	第3・4・5・6章 加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)					配布資料の復習				
	3	第7・8・9章 高齢者へのアプローチ					配布資料の復習				
	4	第10章 老年症候群					配布資料の復習				
	5	第11章 循環器1 第12章 呼吸器1					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	6	第12章 呼吸器2 第13章 消化器					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	7	第14章 骨・運動器 骨折・骨粗鬆症・変形性関節症					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	8	第15章 神経疾患 脳血管障害など					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	9	第16章 精神疾患 認知症とうつ					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	10	第17章 内分泌代謝疾患 第18章 血液免疫疾患					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	11	第19章 腎疾患 第20章 泌尿器疾患					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	12	第21章 皮膚口腔疾患 第22章 感染症					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	13	第23章 耳鼻科疾患 第24章 眼科疾患					配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習				
	14	第25～32章 高齢者を取り巻く環境・リハビリテーション					講義全体の資料整理と試験に向けての準備				
15	まとめ										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎					100%				
履修上の注意											

科目名	基礎作業学実習Ⅱ						
科目名(英)	Occupation Based Overview ; Practice						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	井本 理美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 作業療法における「作業」について教授する。 2. 作業分析について学び、実際に体験し発表を行う。 3. 「指導法」について学び、「作業の指導」を実際に体験する。 4. 作業の治療的な適用のしかたを学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					作業療法における「作業」について説明ができる	
	○	○	○			作業分析を実際に行うことによって、作業分析の理解をより深める事が出来る	
	○	○	○			学生同士で指導法を実施する事で、受ける側も理解でき、臨床に活かす事が出来る。	
	○	○				作業療法の臨床での治療的介入を理解する事が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	長崎重信 監修:作業学、作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2、メジカルビュー社、2010。 参考文献:吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう(作業科学入門)、医歯薬出版、2008。 日本作業療法士協会:作業・その治療的応用 改訂第2版、協同医学出版社、2003。 古川宏:作業活動実習マニュアル、医歯薬出版、2012。 小林夏子・福田恵美子:基礎作業学 第2版 (標準作業療法学・専門分野)、医学書院、2012。 石川齊、古川宏 他:図解作業療法技術ガイド第3版、文光堂、2011。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	作業療法における作業とその意義				配布プリントの復習 まとめプリント配布	
	2	作業の治療応用とその効果				配布プリントの復習 まとめプリント配布	
	3	作業遂行過程における評価(作業分析について)				配布プリントの復習 1年次「基礎作業学実習Ⅰ」の資料・レポート復習	
	4	作業分析実習(グループ課題)				必要文献の準備	
	5	作業分析実習(グループ課題)					
	6	作業分析実習(グループ課題)					
	7	作業分析実習(グループ課題)				レポート提出作成の準備	
	8	作業分析まとめ・小テスト				レポート作成	
	9	臨床場面での作業活動の支援(対象者への説明、指導法)				レポート提出 まとめプリント配布	
	10	指導法体験実習(ペアで実習)					
	11	指導法体験実習(ペアで実習)				レポート提出作成の準備	
	12	指導法体験実習 まとめ				レポート作成	
	13	治療への応用の実際				レポート提出、配布プリントの復習 まとめプリント配布	
	14	まとめ・小テスト					
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				70%
	小テスト		◎				10%
	実技レポート	◎	◎	○	○		20%
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学Ⅰ						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅰ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	リハビリテーションにおける評価とは何かを学習する。その中でも、面接・観察、その記録方法の概要を学習する。作業に焦点を当てた評価ツールを用いて、作業療法における面接・観察の視点を学習する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○	
					その他:	△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法における評価の視点を説明できるようになる。	
		○	○			作業療法面接評価であるCOPM・OSA-Ⅱを使用し、作業上の問題を聞き出せるようになる。	
		○	○			作業療法観察評価であるACIS・VQ・AMPSを用いて観察視点を増やすことができる。	
	○	○				人の作業上の問題が生じている理由を、人間作業モデルの枠組みを使って説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	①オリジナルテキスト ②COPM・AMPSスターティングガイド(医学書院) ③作業に関する自己評価 使用者手引き(日本作業行動研究会) ④コミュニケーションと交流技能評価 使用者手引き(日本作業行動研究会) ⑤意志質問紙 使用者手引き(日本作業行動研究会)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	評価の意味と目的・・・作業療法評価とは何のために行うのか?				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	2	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	3	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	4	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA-Ⅱ概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	5	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA-Ⅱ実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	6	対象者の作業上の問題を知るための評価演習				COPMの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと	
	7	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	8	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS技能項目)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	9	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS演習)					
	10	対象者の意志を知るための評価(興味チェックリスト・VQ概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	11	対象者の意志を知るための評価(興味チェックリスト・VQ実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	12	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS概要)				次回小テストと評価演習を行うため、授業をよく聞いて理解すること。	
	13	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS運動技能項目と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	14	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS処理技能項目と演習)					
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				50%
	小テスト		◎				20%
	実技レポート	◎		◎	○		30%
履修上の注意	※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						

科目名	老年期障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Aging Adults						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	早川 由加里		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	日本の急速な高齢化に対応する為、この科目では高齢者の特徴や使用出来る制度、評価やリハビリテーションについて学ぶ。高齢者とそれを取り巻く環境・これから必要となることについて知り、臨床現場での評価実践やコミュニケーションを通して、自身に不足しているもの見出す機会も持つ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日本の高齢化の歩みと、社会制度について学び、それを記述することが出来る。	
	○	○				高齢者の“古い”・“変化”についての特徴を10個以上列挙出来る。	
	○	○	○	○		老年期リハビリテーション・評価について説明が出来、実際の臨床現場にて実践することが出来る。	
	○	○	○	○		講義・班活動・実習を通し、対象者や自分自身のことについて理解を深める・課題を見出すことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	1)小川敬之、竹田徳則 編:認知症の作業療法 ソーシャルインクルージョンをめざして 参考文献:1)松房利徳、新井健五 編:標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版. 医学書院,2016. 2)宮口英樹 監修:認知症を持つ人へのアプローチ-視点・プロセス・理論-. メディカルビュー社,2014. 3)藪脇健司 編:高齢者のその人らしさを捉える作業療法. 文光堂,2015.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション／コミュニケーション実習				学外実習。 事前に高齢者の特徴について調べてくる	
	2	コミュニケーション実習／高齢社会の背景と現代社会、リハビリ、心身機能と評価				学外実習。 話す話題について事前学習を行ってくる	
	3	認知症の作業療法①:認知症サポーター養成講座				主に対応、急増する認知症について事前学習を行う。	
	4	認知症の作業療法②:概論				認知症につて事前学習	
	5	認知症の作業療法③:評価				認知症の評価につて事前学習	
	6	認知症の作業療法④:リハビリテーション				認知症のリハビリテーションについて事前学習	
	7	認知症の作業療法⑤:アプローチ				認知症へのアプローチについて事前学習	
	8	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律①				学外実習・発表。再度コミュニケーションの取り方や話題について事前学習	
	9	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律②				学外実習・発表。認知症の機能評価を実践する為、実施や説明の行い方について事前学習	
	10	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律／発表③				学外実習・発表。各テーマのプレゼンテーションを行う為、事前準備	
	11	現場のOTによる講義				実習や講義を通して学んだことを整理し、講義に臨む	
	12	現場のOTによる講義				実習や講義を通して学んだことを整理し、講義に臨む	
	13	高齢者体験実習／症例検討				実習。高齢者の気持ちや各種動作など身体的なことについて事前学習	
	14	高齢者体験実習／症例検討、講義のまとめ				全講義について重要な部分を確認しておく	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)レポートを実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		○				80%
	小テスト	○	○				10%
	レポート	○	○				10%
履修上の注意	■その他の参考文献等は、授業内資料でその都度提示する。 □場合により、講義内容の変更・順番の変更等を行う。						

科目名	義肢学						
科目名(英)	Prosthetics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	切断者における作業療法の目的と作業療法士としての役割について教授する。また、義手の作業療法に必要な知識や技術についても提示する。加えて先端技術である筋電義手についても学習を深める。近年、生活習慣の多様化により下肢切断者が増加していることを知り、義足の知識や情報についても教授する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				切断者のリハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解することができる	
				○		断端管理をするためのドレッシングができるようになる	
	○	○				能動義手の構造および適合検査について理解することができる	
	○	○				筋電義手の構造および適合について理解することができる	
	○	○				下肢切断者における作業療法の役割を理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	1)大庭潤平:義肢装具と作業療法. 医歯薬出版株式会社 2)PT/OT国家試験 必修ポイント 基礎OT学. 医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンス 義肢学総論					
	2	切断の臨床と義肢の分類					
	3	切断のリハビリテーションとチームアプローチ				小テストの準備を行ってください	
	4	切断術後の断端管理法					
	5	義肢の処方と義肢支給体系					
	6	義手の構造				小テストの準備を行ってください	
	7	上肢切断の作業療法					
	8	能動義手における適合検査					
	9	能動義手における作業療法				小テストの準備を行ってください	
	10	筋電義手の構造					
	11	筋電義手における作業療法					
	12	上肢切断における作業療法のまとめ				小テストの準備を行ってください	
	13	下肢切断に関する基礎知識					
	14	下肢切断の作業療法					
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							